

子育て支援関係団体等ヒアリング要録

開催日時	令和元年 5 月 2 9 日（水） 15 : 00～16:40
場所	印西市役所 本庁舎 4 階 41 会議室
事業者ヒアリング 参加団体 【5 団体】	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり保育園（子育て支援センター、学童クラブ） ・子どもふれあいセンター（児童館） ・西の原幼稚園 ・ファミリーサポートセンター ・つどいの広場

〔参加者意見〕

（1）各関係団体等の現状と課題や今後の課題について（団体ごとの意見）

〔つどいの広場〕

① 現状

- ・そうふけつどいの広場として、市内の第 1 号の広場として始めた。始めた当初は地域に子育て世代が少なかったが、現在は若い人が増えた。
- ・その後、保育園も週 1 回広場事業を開設するなど、市内に広場が増え、日程表を見ると多くの事業が行われている。
- ・最初の目標は、ポストの数と同じ数の広場をつくることであったが、現在はポストより多くなっている。

② 課題

- ・母親が子どもを注意できなくなっている。子育ての環境が変わってきている。

③ 今後の活動

- ・地域と一緒に活動や 3～4 世代家族との交流などを考えている。

〔保育園等〕

①現状

- ・待機児童が多い、保育園は、分園を含め 30 園と多くなっているが、待機児童が減らない。
- ・子育て支援センターは増えており、保護者は情報を収集して活用している。

②課題

- ・少子化による経営の問題、保育士不足が課題である。

④ 今後の活動

- ・無償化が進む中、行政と一緒に待機児童を減らすことや保育士の確保をすること

に努める。

- ・子育て支援センターは、事業のプログラム等を充実させる。

〔幼稚園〕

①課題

- ・職員の新卒採用が課題であり、採用を早めているが、近隣市等で優遇しており、流れていくケースがある。
- ・園児募集は、少子化が進む中、差別化を図る必要がある。
- ・通園バスを使うことによる保育時間短縮への対応ができる。
- ・気持ちの面（あきらめない、挑戦心）への対応などを考えている。
- ・保護者の変化、ケガの問題、アレルギーや発達障害への対応、防犯・防災の強化などが課題である。
- ・幼稚園としては外遊びをもっとさせたい。

〔ファミリーサポートセンター〕

①現状

- ・佐倉市にもあり、さくら市をモデルとして活動している。
- ・提供会員は、昨年各地区に町内回覧した結果、10名程度集まった。
- ・口コミでの会員勧誘の効率がよいので、声掛けで募集している。
- ・送迎等についても、地域と協力しながら進めている。
- ・佐倉市、我孫子市とも情報交換しながら進めている。

②課題

- ・様々な提供依頼があり、対応できないケースがあり、市の子育てヘルプで対応できることもあるので、他のサービスと複合的に対応することも必要である。

③今後の活動

- ・提供会員と利用会員の交流会を検討している。

〔子どもふれあいセンター（児童館）〕

①現状と課題

- ・職員は、保育士と児童厚生員から構成されているが、役割の明確化による定着が課題となっている。
- ・年間53事業を行っているが、少ない職員の中で、企画力、コンプライアンスなどを強化する必要がある。
- ・親子の見守りをしているが、声なき声を聞くための能力を身につけることも必要である。
- ・子育て支援サークルが利用するが、クレームなどがあるので、市とも協力しながらルールの厳守に努める必要がある。
- ・核家族化、少子化、地域の変化など、地域社会が大きく変化する中、子育てに不安を抱える母親が多く来館している。

- ・働きたいが預けられない母親がおり、来年の保育園5園開設について関心があるが、幼稚園からの移動など、不安を抱えているのが現状である。

③今後の活動

- ・生活困窮者の関係から、地域格差があるので、学習支援を始めており、外に出て来ない方などへの対応を含め、進めていく予定である。
- ・増加する外国人の方が長く住めるように支援することや情報提供に努めていく予定である。

(2) 子育て家庭の印西市への要望等について（団体ごとの意見）

〔つどいの広場〕

- ・要望は特になく、問題は広場の中で日々解決している。

〔保育園〕

- ・職員の確保が大変なので、市として保育士の誘致を進めてほしい。
- ・民間の保育園では、0～2歳の児童で定員がいっぱいになっているため、一時預かりの要望が多いが応えきれていないのが現状である。公立の保育園が、一時預かりや障害児保育に特化するなど、公立と民間ですみわけをすると地域としての子育て支援に応えられると考えられる。

〔幼稚園〕

- ・懇談会での保護者の要望としては、「遊具のある公園が少ない」、「バスの本数が少ない」、「電車の本数が少ない、料金が高い」、「市役所出張所の提出書類等が不便で市役所本庁まで行かなくてはならない。開庁時間を延ばしてほしい」、「街灯が暗いので心配」、「健診時の待ち時間が長い」などがあつた。

〔ファミリーサポートセンター〕

- ・要望としては、「他のサービスとの複合的な提供」、「急な依頼への対応」、「施設への援助」、「病気の子の迎え」、「幼稚園などの迎え」、「市外の送迎」などがある。
- ・利用者から感謝されることが多く、要望は少ない。

〔子どもふれあいセンター〕

- ・印西市は住みやすいまちである。支援センターがたくさんあり、子育てもしやすいまちである。
- ・市の窓口では、できることとできないことを曖昧にしないで明確にする。
- ・情報発信が急務である。市として独自のホームページなどをアプリケーションで検討してほしい。
- ・アンケートでは、情報発信の不満が多く、スマートフォンで情報が見れるようにしてほしいという要望が多い。
- ・現場においても、携帯から情報が見られるようにしてほしいという要望がある。
- ・現状は電話予約なので、子育て支援施設共通の予約システムを市でつくってほしい。

(3) 印西市の子育て支援について（意見交換）

- ・虐待が増えたので広場をつくった経緯がある。高学歴でも子育ては違う要素がある。多くの人が広場に通っているが、家から出ない人をいかに来てもらうかが重要と考えている。
- ・来れない方が、自分の力で来てもらうようにすること重要である。きっかけづくりとして、家にいながら知ってもらうために、スマートフォンで情報が取れることは必要である。
- ・市のホームページで広場に来る人もいる。
- ・市のホームページを見やすくすることも必要である。
- ・移動動物園とキッチン館をやり、271人が来場したが、こんなよい事業をなぜ流さないのかと言われた。印西市は広いので、情報発信は課題である。
- ・赤ちゃん訪問や4ヶ月健診など、100%になるように、安否確認などをしていく。
- ・子ども発達センターは、職員のレベルも高く、印西市として誇れるものなので、アピールしていくとよい。
- ・子ども発達センターは、定員30名で待機待ちの状況であるので、大規模改修後に事業所へ格上げするなど、受け入れ体制の強化を市として検討している。
- ・子ども発達センターは、発達支援が増える中、子育てへの強いアピールとなる。
- ・子ども発達センターは、検査して、子どもの療育もあるが、親がどのように受け入れていくかという親の支援にもなっている。
- ・母親は、子どもの発達を気にしている。
- ・母親が過剰に反応している面がある。情報が氾濫して、誤った情報もあるので、対応していく必要がある。
- ・印西市は、乳幼児と親の支援は手厚いが、児童の分野が弱いような気がする。学習支援以外に児童の分野で推進することはあるか。
- ・現状では、学習支援を中心に展開していく予定である。
- ・児童の分野では、生活態度などで、地域格差を非常に感じる。居場所の確保は必要であるので、指導しながら進めることが、児童館では課題である。
- ・虐待の相談件数においても、地域差がある。
- ・親の問題から、子どもが小学校に上がって大丈夫かと感じることが増えている。
- ・今の子どもは、他人のことを言わないので、本音がわからない部分がある。
- ・児童館のあるべき姿を知りたいと考えている。
- ・今後の少子化を考えると経営の問題は大きい。社会福祉法人の統合も考えられるし、民間の統廃合も必要になる。その中で、公立は障害児保育などに特化し、保護者の安心感を得て、民間と公立のすみわけを明確にしていく必要がある。

以上